

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		公共交通運行事業	担当課	都市計画課
総合計画	政策	快適に暮らせるまち	計画期間	平成13年度～
	施策	道路網・公共交通体系の整備	種別	任意の事務
	基本事業	公共交通網の充実	市民協働	企画立案への参画
予算科目コード		01-080401-09 単独	根拠法令・条例等	守谷市地域公共交通活性化協議会設置要綱、守谷市ノンステップバス導入事業費補助金交付要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成8年9月に運行開始した福祉循環バスを平成13年10月からコミュニティバスに形態変更して運行していたが、様々な課題が挙がり、平成20年6月に「守谷市循環バスのあり方等研究会」を設置し、今後のバスのあり方等について検討した。その結果、路線バスとコミュニティバスの補完関係を明確にし、連携の強化を目的として平成20年度に「守谷市地域公共交通活性化協議会」を設置し、協議会を主体に公共交通の見直しに取り組み、平成22年度からモコバスを運行した。	平成31年4月1日から1年間行った公共交通再編による実証実験の要望や利用実績等を踏まえ、令和2年度は、デマンド乗合交通及びモコバスの再編を段階的に行う。 デマンド乗合交通は、利用者数の増加に伴い、利用時間が合わないなどの予約お断り件数も増加しており、対策として平日の運行台数を3台から4台へ増車する。運行事業者として新たに㈱守谷福祉協会が加わり、守谷タクシー(有)、関鉄県南タクシー(株)、小川交通(有)の4社（各社1台）で運行する。また、正午から午後1時まで運休していた1時間を各事業者の昼休憩をずらし、8時から16時30分まで運休無しで運行する。 モコバスは、市役所・板戸井ルートに要望の多かった「いこいの郷」バス停の新設と、大井沢小学校児童の下校時間に合わせたダイヤの調整を行う。また、その他ルートやダイヤの見直しは関東鉄道㈱と協議していく。車両については、導入から10年以上経過し、老朽化しているため2台買い替えをする。購入費用は国の補助金申請をし、補助金を活用する。 経費については守谷市地域公共交通活性化協議会へ負担金として支出する。 また、路線バスのバリアフリー化を促進するため、ノンステップバスの導入に対して補助する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
効率的で利便性の高い「将来にわたって持続可能な公共交通網の形成」を目指す。	
（参考）基本事業の目指す姿	
バス、鉄道等の公共交通による快適な移動を確保する。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
・市内公共交通再編による実証実験の検証（モコバス、デマンド乗合交通） ・モコバス車両買換え（R2.10月～運行開始に向けて）	・平成30年7月に策定した、守谷市地域公共交通網形成計画に基づき、令和元年度の市内公共交通再編による実証実験検証の調査結果を図るための公共交通活性化協議会の実施。 【モコバス】 4月～6月 データ分析 実証実験の検証 6月～8月 ルート案の提案、関係機関との調整 10月～ 新ルート再編 【デマンド乗合交通】 4月～6月 実証実験の検証 6月～8月 関係機関との調整 9月～ 検証に基づく運行 【協議会】 R2.5月中旬 ：第1回 R2.7～8月頃 ：第2回 R2.12月頃 ：第3回 【分科会】 案件により随時開催予定
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
・市内公共交通再編による市民等の要望、意見およびデータの分析を行い、守谷市地域公共交通活性化協議会（事務局：都市計画課）で検証を行う。 ・モコバス：ルート再編 ・デマンド乗合交通：適正な運行時間、台数、予算 ・交通ブック作成：ダイヤ構成（モコバス、路線バス、デマンド利用）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度を取組（評価、課題への対応）
平成31年4月から1年間の実証実験として、モコバス路線の再編及びデマンド乗合交通の導入を行った。 モコバスについては、運行経費を減らしつつ、効率的な路線再編を行うことができたが、「いこいの郷」バス停の新設要望等があったためルートの一部変更を検討した。デマンド乗合交通については、交通弱者の需要に対して有効であることが確認できたので、新たな交通手段の本格運行に向けて高い期待が得られた。また、利用者の増加に対応するため、平日の運行車両の増車を検討した。	モコバスについては、昨年度と同様に2ルートで運行を行ったが、令和2年4月1日から「いこいの郷」バス停を新設するとともに大井沢小学校児童の下校時刻に合わせたダイヤ調整を行い「市役所・板戸井ルート」を一部変更した。また、車両の老朽化に伴い、国の補助金を申請し新車両を2台導入した（8年リース）。デマンド乗合交通については、昨年度の実証実験の検証により、令和2年度から本格運行を開始し、利用者の増加に対応するため、8月から平日の運行車両を1台増車した（3台から4台）。 また、令和2年度は新型コロナウイルス感染症が拡大したため、大きな影響を受けた交通事業者に対して緊急支援金を交付した。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
モコバスの年間利用者数（人）	138, 243. 00	137, 395. 00	140, 400. 00	139, 057. 00	54, 770. 00	39, 591. 00	57, 500. 00
デマンド乗合交通の年間利用者数（人）	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	13, 274. 00	13, 580. 00	17, 000. 00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	モコバスについては、ルートの一部変更を行い利便性を向上させたが、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が年度より減少した。デマンド乗合交通については、本格運行を開始し運行車両を1台増車したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあってか、利用者は昨年度より微増となった。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持 ☒ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	交通空白地域（高野地区）を改善するため、モコバスのルートの見直しが必要であり、新ルート再編に向けて引き続き検討・協議を行う。デマンド乗合交通については、乗合率の向上を目指し効率化を図る。						

コストの推移						
項目		H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込
事業費	計	95,104	55,450	77,151	85,401	85,401
	国・県支出金	0	0	12,325	2,475	2,475
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	822	0
	一般財源	95,104	55,450	64,826	82,104	82,926
正職員人工数（時間数）		3,351.00	3,526.00	1,661.00	0.00	0.00
正職員人件費		13,990	14,467	6,724	0	0
トータルコスト		109,094	69,917	83,875	85,401	85,401